
ある男とONE PIECE

?ゆき?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある男とONE PIECE

【コード】

N3468Y

【作者名】

?ゆき?

【あらすじ】

起きたらONE PIECEの世界だったなんてあり得ねええ！

！！

壱 その男ONE PIECEの世界に逝く(笑)(前書き)

?ゆき?です!!

初投稿で読みにくいと思いますが、
よろしく願います!!

巻 その男ONE PIECEの世界に逝く(笑)

俺は至って普通の奴だ。

髪も目も黒だし顔もイケメンではないけれど不細工なわけでもない。ケータイの小説等は少し読むが、それがなくなっても困ることはない。いややっぱり困るかもしれない。

オタクではないがアニメや漫画は好きだしそれをいろんな人達がアレンジしたケータイ小説は面白くて大好きだし今のところそれくらいしか好きなものがない。まあそんなことはさておき、その日俺は普通にベットに入って寝た。

なのに：起きたらジャングルにいた。

「うん夢だな、寝よう」俺は寝た。
だってそうだろ？

起きたらジャングルに居ましたあ(笑)

なんて認めない！！認めて堪るもんか！！

寝始めて1分「ギヤアア」「グルルウウ」「ガオオオオ」「キシヤアア」生命の危機を感じた。

「だめだああ！！今此処で寝たら食われるううう！！！！」
俺は飛び起きた。

「なんなんだよ！意味わかんねえよ！！どうなってるんだよ！！！！」
俺は周りを見渡し、あるものを声に出してみた：

「木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木
だった：アレナンダカオカシイナア？

木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木・木
アレヤツパリオカシイゾ？

き・き・き・き・き・き・き・き・き・き・き・き・き・き・き

アレ？ホン？本？ほおおんんん！！！！

なんでジャングルに本があるんだよ!!!」

取り合えず本を拾ってみた。

真っ白な表紙に黒で「ひらいて」と書いてあった。

誰に向けて書いたのか分からなかったから取り合えず裏表紙に誰宛か分かるものがないかと思いいその本をひっくり返した。

「ひらけて書いてあるんだから早くひらけよコノヤロー」って書いてあった。

俺は投げた…その本を空の彼方まで…

…なんか本を投げた方からガサガサ音がする。

あれ?なんか白髪のロン毛ジジイがさつき投げた本を持って「なんで投げるのじゃ?ホント意味わかんないのじゃ。」

とか言ってる。

オレハソノジジイヲケリアゲタ…

「ぐあああ」ジジイが吹っ飛ばす。

その隙に俺は全力で逃げた。>ザザアア<

ジジイが倒れる。>ムク<

ジジイが起き上がる。

「待ちやがれえ糞餓鬼がああ!!!」

追い掛けて来たああ!!!

俺逃げる ジジイ追い掛ける 俺逃げる ジジイ追い掛ける 俺逃

げる ジジイ追い掛ける… (エンドレス)

>バタ<>バタ<倒れた。

「もう無理だあ!!!は、走れねええ!!!」x2

2人は3時間程全力でダッシュしていた。

ジジイは言った。

「なんでゴホツ逃げるゲホツんじゃハアハア」

俺は答えた。

「追い掛けゲホツられたからだヒューヒュー」

俺は言った。

「なんでゴホツ追い掛けたんだ」

ジジイは答えた。

「えっノリで？」

「ふざけんなあああ！！！！」「ちよつ落ち着いてえ！ワシの話を聞くのじゃああ！！！！」

「…なんだ。」

「へっ？」

「話とはなんだと聞いている！早く話せえええ！！！！」

「あのですね…怒らないでなのじゃ？」

「話の内容による。」

「うう…あのお実はあなたが寝ている間に、ワシは天界で書類整理をコピー飲みながらやってたんじゃけど、コピーをこぼしちやってあなたの書類に掛かってしまったんじゃ…。」

「で？」

「そのコピーのこぼしちやった所にあなたの書類があつたのじゃ…。」

「…つまり俺はお前がコピーをこぼしたせいで俺は死んで転生したのか？」

「…その通りです。本当に申し訳なかつたのじゃ！！！！」

「はああ…反省はしているのか？」

「はい。だからこうして転生させているのじゃ。」

「そうか…」

「…あのそれでここが何処だかとかなんの能力持ってるとか説明した方が良いかのお？」

「…ああ」

「では説明させてもらうのじゃ。ここは現世にある二次元の世界の ONE PIECE の世界じゃ。」

「おいちよつと待て ONE PIECE だと！？完璧に死んじまうじゃねえか！！！！」

「はい。だからこそあなたには能力を付けさせて戴いたのじゃ。」
「どんな能力だ？」

「まず1つ目は不老不死に致したのじゃ。ワシがあなたの人生を滅茶苦茶にしたのですからこれくらいは当然だと思ったからじゃ。だが完全にはしなかったのじゃ。」

「何故だ?」「永遠の時を生きるということには覚悟が必要なのじゃ。愛したものにも愛してくれたものにも、親しくなった友にもおいて逝かれる…そんな覚悟が必要なのじゃ!!」

「…そうか、それでどんな風に不完全なんだ?」

「それはのお、死ぬことができるのじゃ。つまりは自殺ができるのじゃ。」

「それは自分以外にはどんな攻撃をされても死なないということか?」

「はい。そういうことなのじゃ。しかし例外があるのじゃ。それは自分の意思で死なないと死なないのじゃ。つまりは誰かに体に乗っ取られても自分の意思で自分の死を望まない限りは死なないのじゃ。」

「…そうか…ありがとう。それで2つ目は?」「2つ目の能力は次元の世界じゃ。これはつまり漫画・アニメ・小説などの攻撃・防御など様々の事ができるのじゃ!!しかもそのすべてのマイナス面は無くしてできるのじゃ!!!」

「つまりはすべての悪魔の実の能力を海に溺れずに使えると。すげえな最強じゃん(笑)っ待てそれって二次ファ○とかのオリジナルの実も使えるってことか!?」

「勿論なのじゃ!!あとBLEACHやNARUTO何かもOKなのじゃ!!!」

「すげえな!!!超チート!!!」

「ラスト3つ目。これはワシの趣味なんだが良いかのお?」

「ああ多分大丈夫だ。」

「まあたいしたことじゃないんじゃ。あなたの外見と服装についてなのじゃ。」

「外見と服装?」「はいそうなのじゃ。まず髪の色は白銀で瞳の色

は緋色で肌の色は雪のような白なのじゃ。瞳に関してなのですが普段は人間と同じように瞳孔が丸いんだが、戦闘になると瞳孔が縦に裂かれるのじゃ。戦闘が真夜中で真っ暗でも夜目が効くようになるためなのじゃ。そして服装に関してだががあなたには和服が似合うと思ったからのお、こちらの着流しを着ていただくのじゃ。色は髪と同じく白銀なのじゃ。汚れはあまり付かないようにできていて、付いたとしても水洗いで落ちる様にできているので安心なのじゃ！そして最後はあなたの年齢なのじゃが15歳になっているのじゃ。日本人の15歳なので身長が低いがまあ我慢しとく の じゃ (笑) 「

壱 その男ONE PIECEの世界に逝く(笑)(後書き)

中途半端な終わりです。申し訳ありません！

式 その男ジジイとお別れなァりい (笑) (前書き)

果てしなく短いですがよろしくお願いします!!!!

式 その男ジジイとお別れなarii(笑)

「身長が成長しないのか…まあここまでやってくれたんだからそれ位は…いやけどなあ身長かあ…まあそうなってしまったものはしょうがないかあ。」

ジジイの体が光出した。

「すいません。もう時間みたいなのじゃ。」

「ああそうか色々ありがとな。」

「いや、あなたを殺したのは紛れもなくワシなんじゃからこちらこそ本当に申し訳なかったのじゃ。」

「いや、いいんだよ。こつちもなかなか楽しそうだからな!!」

「これからあなたは意識を失うのじゃ。そしてまた起きたときがあなたの冒険の始まりなのじゃ!! 最後のおまけなのじゃ。この指輪をあなたに授けるのじゃ。この指輪の能力はあなたが決めた事を1つだけ永遠に叶え続けるのじゃ。ではもうサヨナラなのじゃ。」

「おう!じゃあな!!」

ジジイは光になって天に昇っていった。

> ばたん<

俺は倒れた。意識が薄れていく…

式 その男ジジイとお別れなァりいい（笑）（後書き）

ここまで読んでくれてありがとうございます！

私^が他の人の小説を読むときに前書きと後書きが無い方が読みやすいという勝手な思い込みで次話から書かないことにします！

どうしても書いて欲しいと思う方は？ゆき？に直接文句を言っ^てやっ^つてください！！

参 その男始めての仲間に自分の能力(笑)(前書き)

?ゆき?からお知らせです!!

前回もう前書きも後書きも書かないと言っていたのですが、設定等でお伝えしたい事があるときは、前書きや後書きでお伝えしていこうと思います。

くお知らせ)

x x 吉 x x

このある男とONE PIECEの中の【ゴール D ロジャー】は50歳で処刑されたという設定です。

x x 式 x x

このある男とONE PIECEの主人公は2次元の技は何でも使えますが取り合えず、BLEACHの斬魄刀とNARUTOの忍術しか使わないつもりでいます。あまりたくさんの2次元の技を使うと、自分の文章力では読みにくいと思いますし、沢山技があっても使いこなせません…。

こんなダメ文を読んでくれて、

本当にありがとうございます!!

これからもよろしく願います!!

参 その男始めての仲間に自分の能力(笑)

> ぱちっく

目が覚めた。

体を起こしたら手紙があった。

「申し訳ないのお。手違いで原作開始の52年前に送ってしまった事を言い忘れていたのじゃ。まあ許してくれのお。能力を試したりして時間潰ししておいてくれのお。」

「マジかよ！何やってんだよあのジジイ！！はあもうなっぺんだからしようがないか…」> ガサガサツく

全長5？の虎が草むらから出てきた。

「えっ？」

> ザクウウく

虎の爪が俺の体を貫いた。

「うわあああ！！！」

> パキパキツく 虎がいきなり凍った。

「今のはもしかしてヒエヒエの実の能力か？生命の危機に自動的に発動されたのか？はあもうここはONE PIECEの世界なんだな…まあいいこれからどうすっかなあ飯はこの虎があるから問題無いとして、家はどうすっかな…今考えても仕方ないか。やること沢山あるしまずは腹ごしらえだな！！この虎食うか、けど凍ったままじゃ食え無いしなあ…「よしっ取り合えず火拳！！！」

> ゴオオオく

「うおお旨そうに焼けたな！んじやいただきます。」

> ガツガツく

「うめえな味付けしてないのに。けど毎日同じじゃ飽きるよなあ…

明日からはもつと凝った料理作ろうつと。」

「よしっ取り合えずこの島を探検しようかな。」

こうゆう時は鳥とか空飛べる方がいいよな…よしっ【トリトリの実

モデルファルコン】で行こうっ！

>バサア<

翼を広げていざ出発だあ！！

「さすがジャンル木ばかりだなあ…おっあれは湧き水かあこれから絶対に来る場所だからチエックしとかないなあ。喉渴いたからこの水飲んでみよう！」

>ゴクゴクツ<

「ぶはああ！旨いな！！さすが天然水だ。よし次行くか！！」

飛んでいると沢山の動物達と会った。何故か動物達と話ができた。

「あのジジイだな。」で終わらせた。もうツツコミすんのが疲れたんだよ。しょうがなくね？

取り合えず疲れたから木遁忍術で家を作った。俺は明日の朝食を捕まえられたらラッキーだなあみたいな感じで家の回りにトラップを沢山仕掛けておいてさ？

>チユンチユン　チチチ<

「ん？朝か…よく寝たなあ、今何時だ？っあ時計ねえからわかんねえや…う…ん太陽の位置からして大体7時くらいかなあ？よしっ取り合えず飯の調達に行くかなあ。」

俺は家から出た。

目の前には猛獣がいてめっちゃめっちゃビビった。

「そっいえば昨日トラップを沢山仕掛けておいたかも！よしっ今日の朝飯はこの熊だな！！」

熊はこんがり焼いて美味しく食べたんだ（笑）

俺は暇になったから、自分の能力を試すことにした。取り合えずここじゃ危ないから島の端っこに移動して海に向かってやってみた。

「火拳！アイスエイジ！流星火山！ゴムゴムのガトリング！メロメロメロウ！っあ鳥が落ちた！！」

これは不用意に使ったら駄目だなあ。

俺はその日、日が落ちて辺りが暗闇に支配されても自分の技を試し続けた。

>チカツ<

「あれ？もう朝か…ちょっとやり過ぎたかな？」

そういえば俺、実は別に食べ物を食べなくても大丈夫なんだ。

寝なくても大丈夫だし。

自分でビツクリだ！

昨日と一昨日の熊さん虎さん食ってごめんなさいだよな！！ホントに（笑）

そうだ！あとジジイに貰った指輪の機能はペットの家の様な機能にした。ポケモンのモンスターボールが指輪になったみたいなイメージだ。

ただし一匹じゃなくて何匹だつて入るし中に入っていれば傷が癒えるというオプシオン付きだ！凄くね？超面白え！！

あっちゃんと中に入れるペットは俺の第2の能力で誕生させたんだ！！

どうせだからこの世にはいない空想の動物にしたんだ。

聖龍に九尾の銀孤にフェニックスの計3匹だ。

ジジイのおかげ？でこいつらとは喋れて仲良くしている。

皆良い奴等ばかりで喧嘩なんてしない。

俺はペットという考えを捨てて仲間として迎え入れようと思い、それを伝えたら皆メチャクチャ喜んでたから、良かったなって思った。何故だかこいつらは俺を裏切らないって思ったんだ。

銀孤の尻尾はスゲエふかふかでさ寝るときは一緒に寝てるよ！何でかな？凄く安心できるんだ。

こいつらは皆サイズが変えられて一番小さいのが猫位の大きさで一番大きいのが大山位、つまりは富士山くらいの大きさになれるんだ。それを聞いたときはビツクリした。

そんで修行終わってこの島を出るときは船じゃなくて聖龍とフェニックスに乗せて貰おうと思った。

海軍が来ても絶対に捕まらねえなって思ってたよ！

その事を頼んだら快く承諾してくれた！！

流石だぜ皆って感じだな（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3468y/>

ある男とONE PIECE

2011年11月20日19時31分発行